

平成24年度決算に係る

定期監査
決算審査
調査調書

平成25年6月

農林水産部農林総合研究所
農業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1
	(1) 指摘事項	1
	(2) 監査意見	1
	(3) 決算審査意見	1
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3	組織及び業務調べ	1
4	職員の定員、現員調べ	1
5	役付職員の調べ	1
6	主な事業に関する調べ	2
7	決算調書(総括表)	5
8	事業別実施状況調べ	6
9	予備費の充用調べ	6
10	繰越関係調べ	6
	(1) 継続費通欠繰越調べ	6
	(2) 繰越明許費調べ	6
	(3) 事故繰越調べ	6
11	収入証紙取扱額調べ	6
12	収入事務処理状況調べ	7
	(1) 分担金及び負担金	7
	(2) 使用料	7
	(3) 手数料	7
	(4) 財産収入	7
	(5) 寄付金	7
	(6) 諸収入	8
	(7) 現金の取扱状況	8
13	税外収入未済額調べ	8
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	8
15	税外収入不納欠損額調べ	8
16	債務負担行為の状況調べ	9
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	10
	(1) 負担金	10
	(2) 補助金	10
	(2-2) 補助金(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	10
	(3) 交付金	10
	(4) 委託料	11
	(4-2) 委託料(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	11
18	工事請負費調べ	12
18-2	工事請負費調べ(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	12
19	財産に関する調べ	13
	(1) 公有財産	13
	(2) 金券類の受払状況	16
	(3) 基金	16
	(4) 債権	17
20	財産の貸付及び使用許可調べ	18
	(1) 土地及び建物	18
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの)	18
21	借受不動産明細調べ	19
22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	19
	(1) 職員住宅	19
	(2) 職員駐車場	19
23	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	20
24	寄附物件の受納状況調べ	20
25	備品の処分状況調べ	20
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	20
27	貸付金等状況調べ	20
28	事業別予算執行状況調べ	21
29	農業機械の管理状況	22
30	生産物(品)に関する調べ	23
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	24
○	意見、要望等	40

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1) 指摘事項 該当なし
- (2) 監査意見 該当なし
- (3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること (6)水田転作野菜に関すること
	環境研究室	(7)土壌肥料及び土壌保全に関すること (8)主要農作物の病害虫に関すること (9)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(10)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

(平成25年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	
定員	1	0	18	17	5	5	24	22	○事務職員の増は所属が企画総務課から農業試験場になったもの ○技術職員の増は所属が園芸試験場から農業試験場になったもの
現員	() 1 (1)	() 0 (1)	() 18 (6)	() 18 (6)	() 5 ()	() 5 ()	() 24 (7)	() 23 (7)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	1	0	0	0	1	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	16	16	17	17	農業技術員16名 事務員1名

5 役付職員の調べ

(平成25年6月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	石谷 正大	1	2	(病害虫防除所)
作物研究室長	松田 悟	3	2	
環境研究室長	坂東 悟	4	2	通算11年2月 (病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	熊谷 均	5	2	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要																								
<p>水田転作 野菜の安定栽培技術の確立</p> <p>決算（見込）額 896千円</p> <p>（財源内訳） 一般財源 896千円</p> <p>○政策戦略テーマ 11もっとやらいや農林水産業 (4)地域農業振興対策</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 集落営農組織、小規模農業者、新規就農者等から比較的初期投資が少なく、換金性の良い水田転作野菜に対する栽培要望は高いものの、県東部を中心に排水不良等の理由で水田での栽培が進んでいない。 このため、販路が安定している主要野菜（白ネギ、ブロッコリー、アスパラガス等）を中心に水田転作における安定栽培技術（品種・栽培方法・作型等）を確立する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>1) 水田における白ネギ適品種の選定とかん水効果の検討</p> <table border="1" data-bbox="734 537 1452 716"> <caption>年次計画 水田野菜等の品種・栽培方法・作型等の検討</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白ネギ</td> <td colspan="5">→</td> </tr> <tr> <td>ブロッコリー</td> <td colspan="5">→</td> </tr> <tr> <td>アスパラガス等</td> <td colspan="5">→</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1）水田転換畑において、収量・品質に優れる品種の選定 ・園芸試験場の砂丘畑や普通畑試験において、有望とされた5品種について、栽培試験を実施した。</p> <p>（2）夏季の高温乾燥時におけるかん水効果、品種による相違の検討 ・園芸試験場の砂丘畑試験において、高温乾燥時のかん水により、増収する試験事例があり、水田転換畑での効果を検討した。 ・かん水方法として、畝間かん水の実用性についても検討した。</p> <p>2) アスパラガスの定植方法の検討 ・アスパラガスの定植方法は、幅40cm、深さ40cmの溝を掘るが、それには重機が必要であるため、農業機械で実施できる簡易な定植方法について、検討した。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等取り組んだ点 ・事業2年目であり、以下の点に留意して取り組んだ。 ・初年度の試験結果について、園芸試験場、確立した技術を利用するJA等生産組織や普及所等へ情報提供するとともに、今後の試験内容や方法について協議し、試験を実施した。</p> <p>ウ 成果</p> <p>1) 白ネギ ・水田転換畑において、比較的湿害に強く、生育、収量と優れる品種「夏扇パワー」を選定した。その結果を成果情報として、現地に情報提供した。 ・土壌が乾燥しにくい条件下での夏季の畝間かん水は、実用的でないことがわかった。</p> <p>2) アスパラガス ・収穫1年目における収量、品質は、慣行定植様式に比べ、簡易な定植様式が上回った。</p> <p>エ 課題 ・白ネギ：夏季の高温乾燥時におけるかん水基準の検討が残されている。 ・アスパラガス：定植様式の違いによる経年変化をまとめる。 ・ブロッコリー：水田での初夏穫り適品種の検討が残されている。</p>		H23	H24	H25	H26	H27	白ネギ	→					ブロッコリー	→					アスパラガス等	→					
	H23	H24	H25	H26	H27																					
白ネギ	→																									
ブロッコリー	→																									
アスパラガス等	→																									

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>安定した収量と食味向上のための水稲省力施肥技術の確立</p> <p>決算（見込）額 1, 434 千円 （財源内訳） 一般財源 1, 434 千円</p> <p>○政策戦略テーマ 10「食のみやこ鳥取県」全国展開 (2)「食のみやこ鳥取県」を全国での認知向上</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 鳥取県産米の評価アップと生産者の所得向上のため、新品種および主要品種の収量と食味向上を目指して、基肥一発肥料を中心とした施肥技術の再構築を図る。</p> <p>近年、県産米の等級比率が低迷している。夏期の高温等、気象の影響が大きいと考えられるが、近隣県と比較しその低迷は顕著である。玄米品質の向上を目指し、品質低下の要因解析と有効な肥培管理について検討する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>1) きぬむすめ等新品種の生産安定を目指した基肥一発肥料の施用技術開発 県内新品種（きぬむすめ、ヒカリ新世紀）について、肥効の異なる基肥一発肥料を用いた栽培試験を実施した。</p> <p>2) コシヒカリにおける基肥一発肥料の施用技術の再構築 基肥一発肥料を用いたコシヒカリ栽培で、追肥の有無について収量、食味、等級品質について検討を行った。</p> <p>3) 生育指標と長期気象予測を用いた肥培管理技術の検討（2月補正対応） 県内の任意地点における気象データの取得手法および精度の高い気温測定法について検討を行った。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 気象マップデータの取得と応用についての技術獲得を目指して、担当する研究員を長期研修（独立行政法人中央農業研究センター、期間3ヶ月）に派遣した。</p> <p>ウ 成果</p> <p>1) きぬむすめ等新品種の生産安定を目指した基肥一発肥料の施用技術開発 きぬむすめ、ヒカリ新世紀とも早期に肥効が発現する基肥一発肥料が、収量、品質の確保に有効であると判断された。</p> <p>2) コシヒカリにおける基肥一発肥料の施用技術の再構築 基肥一発肥料を用いた場合、年々の気象等で生育が不足する場合がある。これまでは肥料の残効による倒伏の恐れから、追肥は避けられていたが、生育の不足に応じて適度に追肥をすることで、収量、品質が改善されることが明らかとなった。</p> <p>3) 生育指標と長期気象予測を用いた肥培管理技術の検討（2月補正対応） 中央農研センターのデータベースを活用し、気象マップデータを取得する手法を獲得した。また、自作した気温測定装置の精度確認を実施し、有効性を確認した。</p> <p>エ 課題 成果品（気象マップデータを活用した栽培管理技術等）について、幅広い人に利用してもらうための伝達手法について検討する必要がある。従来の農試→指導機関→農家という伝達手法に加え、即時性が高く、直接農家に情報を届けることが可能なインターネット等の利用が考えられる。外部機関との連携に加え、インターネット等の利用に関する技術習得を行う必要がある。</p>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要																														
<p> 水稻・大豆の「ゆ うきの玉手箱」技 術確立事業 決算（見込）額 1,940千円 （財源内訳） 一般財源 1,904千円 ○将来ビジョン I ひらく （4）食のみやこ 鳥取県 ○政策戦略テーマ 11もつとやらい や農林水産業 （3）「若者に魅 力ある農林水産業」 に向けた更なる取 組 </p>	<p> ア 目的及び事業の実施状況 （ア）目的 消費者が求める安全・安心で高品質な農産物の供給に応え、「食のみやこ鳥 取県」をリードする特色ある食材を育成するため、有機栽培水稻・大豆の安定 生産と栽培拡大につながる、取り組み易い技術の確立に取り組む。 当事業は、消費者と有機生産者（志向者含む）のいずれのニーズにも応え、 両者ともに支援することをねらいに置く。 （イ）事業の実施状況 </p> <table border="1" data-bbox="432 539 1422 1115"> <thead> <tr> <th>大課題</th> <th>中課題</th> <th>主な取り組み内容（小課題）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">I 水稻栽培技術</td> </tr> <tr> <td>育苗方法</td> <td>除草対策</td> <td> プール育苗における有機液肥の活用による施肥管理法を確立した 各種のほ場管理法の継続が、雑草発生に及ぼす影響を継続調査した 田植機けん引式チェーン除草法を場内で試験し、除草効果を把握した </td> </tr> <tr> <td>病害虫対策</td> <td></td> <td> 育苗時のケイ酸資材の施用による苗いもち防除の可能性を把握した 中山間地の現地試験にて、害虫であるイネミズゾウムシの耕種的防除法 を確立した </td> </tr> <tr> <td colspan="3">II 大豆栽培技術</td> </tr> <tr> <td>可能性調査</td> <td>除草対策</td> <td> 場内で有機的管理による地大豆栽培を行い、問題点を探った 現地ほ場にて、適期のロータリーの土寄せ管理による高い抑草効果を実 証した </td> </tr> <tr> <td></td> <td>害虫対策</td> <td> 現地ほ場にて、緑色LED灯を活用した光防除法によるハスモンヨトウの 忌避効果を確証した </td> </tr> <tr> <td colspan="3">III 輪作技術</td> </tr> <tr> <td>除草関連</td> <td>病害虫関連</td> <td> 有機的管理による水稻－大豆の輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追 跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）するほ場を設置した </td> </tr> <tr> <td>地力関連</td> <td></td> <td> 当課題については、今後も継続した調査が必要である </td> </tr> </tbody> </table> <p> イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 ・事業終了年度に当たるため、残された課題、新たな現地要望等を整理し、効率 的に当年度で成果が得られる点、次の事業に引き継ぐ点に整理をして取り組んだ。 昨年度に主要成果を複数とりまとめたところであり、今年度は成果情報の形式 としては1本のみにとどまったが、引き続き取り組むべき課題が十分に整理され、 次期研究課題の立案にうまくつなげることができたと評価している。 </p> <p> ウ 成果 ・これまでに有機栽培における簡易で安価にできる除草技術として「チェー ン除草法」の導入の可能性を成果提供していた。ただし、人力では大面積ほ 場においてはたいへんな作業となるため、田植機けん引方式の作業性と除草 効果を検討したところ、けん引方式であればより重いチェーン除草機による 作業が可能であり、除草効果は高まることを確認した。 ・水稻害虫であるイネミズゾウムシの対策として、田植機利用により「畦畔 シート」をほ場内周囲に張りめぐらす耕種的防除法を、山間地ほ場で実証し た。その結果、被害軽減効果は高く、水稻の収量減が抑制できることを確認 した。 ・そのほか、有機に適する健全な苗の育成技術として有機液肥活用による施 肥方法、ケイ酸資材の活用による病害抑制技術、等に関発のメドがついた。 </p> <p> エ 課題 ・有機栽培を開始して生じるほ場や栽培環境等の変化は、当初に想定してい た以上に短期間ではとらえることが難しい面がある（特に、雑草や害虫の発 生生態等）。こうしたことから、他の研究課題以上に根気よく、細やかで十 分な観察を怠ることが無いように留意して、進めることが必要である。 </p>	大課題	中課題	主な取り組み内容（小課題）	I 水稻栽培技術			育苗方法	除草対策	プール育苗における有機液肥の活用による施肥管理法を確立した 各種のほ場管理法の継続が、雑草発生に及ぼす影響を継続調査した 田植機けん引式チェーン除草法を場内で試験し、除草効果を把握した	病害虫対策		育苗時のケイ酸資材の施用による苗いもち防除の可能性を把握した 中山間地の現地試験にて、害虫であるイネミズゾウムシの耕種的防除法 を確立した	II 大豆栽培技術			可能性調査	除草対策	場内で有機的管理による地大豆栽培を行い、問題点を探った 現地ほ場にて、適期のロータリーの土寄せ管理による高い抑草効果を実 証した		害虫対策	現地ほ場にて、緑色LED灯を活用した光防除法によるハスモンヨトウの 忌避効果を確証した	III 輪作技術			除草関連	病害虫関連	有機的管理による水稻－大豆の輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追 跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）するほ場を設置した	地力関連		当課題については、今後も継続した調査が必要である	
大課題	中課題	主な取り組み内容（小課題）																														
I 水稻栽培技術																																
育苗方法	除草対策	プール育苗における有機液肥の活用による施肥管理法を確立した 各種のほ場管理法の継続が、雑草発生に及ぼす影響を継続調査した 田植機けん引式チェーン除草法を場内で試験し、除草効果を把握した																														
病害虫対策		育苗時のケイ酸資材の施用による苗いもち防除の可能性を把握した 中山間地の現地試験にて、害虫であるイネミズゾウムシの耕種的防除法 を確立した																														
II 大豆栽培技術																																
可能性調査	除草対策	場内で有機的管理による地大豆栽培を行い、問題点を探った 現地ほ場にて、適期のロータリーの土寄せ管理による高い抑草効果を実 証した																														
	害虫対策	現地ほ場にて、緑色LED灯を活用した光防除法によるハスモンヨトウの 忌避効果を確証した																														
III 輪作技術																																
除草関連	病害虫関連	有機的管理による水稻－大豆の輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追 跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）するほ場を設置した																														
地力関連		当課題については、今後も継続した調査が必要である																														

7 決算調書
(総括表)
一般会計

(平成25年5月31日現在)
(単位:円)

区分	科目	予算			算現額		計	決算額	翌年度繰越額	差引増減額	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越費及び繰越事業費繰越額	繰越費及び流出増減	A					
歳出	農業総務費	9,763,000	2,116,000			11,879,000	8,854,252	2,116,000	908,748		
	農業改良普及費	70,952,000	2,483,000			73,435,000	59,681,949		13,753,051		
	農業試験場費	85,433,000	146,000			85,579,000	76,546,262		9,032,738		
	園芸試験場費	168,803,000	83,000			168,886,000	158,577,771		10,308,229		
	畜産試験場費	138,648,000				138,648,000	130,665,774		7,982,226		
	中小家畜試験場費	105,186,000	16,765,000	24,783,750		146,734,750	125,074,601	16,765,000	4,895,149		
	林業試験場費	61,059,000				61,059,000	52,759,921		8,299,079		
	合計	639,844,000	21,593,000	24,783,750	0	686,220,750	612,160,530	18,881,000	55,179,220		
	農林水産業手数料	3,774,000				3,774,000	5,039,500		△ 1,265,500		
	農林水産業国庫補助金	16,311,000	255,000			16,566,000	15,748,000	819,000	△ 1,000		
同上	財産貸付収入	242,000				242,000	225,440		16,560		
	生産物売払収入	42,386,000	11,498,000			53,884,000	78,294,015		△ 24,410,015		
	家畜類売払収入	30,776,000	4,111,000			34,887,000	26,131,468		8,755,532		
	農業等検定受託事業収入	11,864,000	△ 866,000			10,998,000	10,997,910		90		
	農林水産研究高度化事業受託収入	3,200,000	△ 200,000			3,000,000	3,000,000		0		
	農業・食品産業技術総合研究機構受託事業収入	200,000	400,000			600,000	600,000		0		
	日本種苗協会受託事業収入	0	300,000			300,000	300,000		0		
	繰越金	0		2,365,750		2,365,750	2,365,750		0		
	雑収入	910,000		2,418,000		3,328,000	4,201,104		△ 873,104		
	農林水産業債	34,000,000		20,000,000		54,000,000	53,000,000		1,000,000		
内訳	小計	143,663,000	15,498,000	24,783,750	0	183,944,750	189,903,187	819,000	△ 16,777,437		
	一般県費充当	496,181,000	6,095,000	0	0	502,276,000	412,257,343	18,062,000	71,956,657		
	合計	639,844,000	21,593,000	24,783,750	0	686,220,750	612,160,530	18,881,000	55,179,220		

8 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(農業試験場書)					
農業試験場管理運営費	49,138,000	42,775,225		6,362,775	施設の維持管理、非常勤職員の雇用等、試験場の管理運営を行った。 主要農作物（水稲・麦・大豆）、農機具、農業経営及び土壌等の各種試験を行った。うち、水田転作野菜の安定栽培技術の確立ほか2事業は、「6 主な事業に関する調べ」に、水稲新品種育成試験ほか10事業は、「3 1 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載。
試験研究費	35,797,000	33,165,217		2,631,783	
身近な農業試験場推進事業	644,000	605,820		38,180	
目 計	85,579,000	76,546,262	0	9,032,738	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ 該当なし

11 収入証紙取扱額調べ 該当なし

12 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金

該当なし

(単位:円)

(2) 使用料

(単位:円)

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用料	電柱敷地等	5	68,664	68,664	0	0	鳥取県行政財産使用料	4月~3月分
		職員駐車場	12	494,000	494,000	0	0		
		計(節)	17	562,664	562,664	0	0		
	目計		17	562,664	562,664	0	0		
	合計		17	562,664	562,664	0	0		

(3) 手数料

該当なし

(4) 財産収入

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
生産物売払収入	生産物売払収入	権種用原種ほか	43	7,709,882	7,709,882	0	0	生産品事務取扱要領 (物品規則)	
		計(節)	43	7,709,882	7,709,882	0	0		
	目計		43	7,709,882	7,709,882	0	0		
	合計		43	7,709,882	7,709,882	0	0		

(5) 寄付金

該当なし

(6) 諸収入

(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
雑入		預金利息	3	124	124	0	0		
		自販機電気代	3	23,342	23,342	0	0		
		自販機販売取扱手数料	4	63,212	63,212	0	0		
		原稿料	1	32,800	32,800	0	0		
		電気水道使用料	1	919	919	0	0		倉庫新築 工事施工 業者使用 電気水道 料
		助成金	1	33,516	33,516	0	0		JAからの 助成金
	目計			153,913	153,913	0	0		
	合計			153,913	153,913	0	0		

〇

(7) 現金の取扱状況

該当なし

13 収入未済額調べ

該当なし

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ

該当なし

16 債務負担行為の状況調べ

(単位：円)

事業名	種別	設定状況			当該事業の契約額等	設定年度の執行額 A	執行(支出)状況			合計 A+B	備考
		議決	期間	限度額			23年度までの執行額	債務負担行為の期間			
								24年度執行額	24年度以降の執行予定額		
平成23年度農業試験場施設管理等業務委託	委託料	H23年12月	H24年度から H26年度まで	606,000	181,440	0	0	60,480	120,960	181,440	
平成23年度農業試験場原種合理化施設種子貯蔵庫保守点検業務委託	委託料	H23年12月	H24年度から H26年度まで	747,000	746,550	0	0	248,850	497,700	746,550	
合計				1,353,000	927,990	0	0	309,330	618,660	927,990	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(単位:円)

予算科目(目)	予算額	区分	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠 法令名等(規 約、要綱等を 含む。)	備考
(農業試験場費)	133,000		大口堰土地改 良区賦課金	大口堰土 地改良区		H24. 5. 21	129,067		
支出金額が10万 円未満のもの							59,700		
目 計							188,767		
(農作物対策費) 支出金額が10万 円未満のもの							10,000		令達元: 生産振興 課
目 計							10,000		
合 計							198,767		

(2) 補助金 該当なし

(2-2) 補助金(他課から予算の配当替えを受けて執行するもの) 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4)委託料

(単位:円)

予算科目 (目)	国 補 単 県 の 別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			入札等 年月日 (契約受託金 納付等年月 日)	完了 年月日 履行検査 年月日	支出の状況		備考	
				予定価格	変更契約(最終) (契約年月日) 契約額	契約期間			支出区分	支出 年月日		金額
農業試験場費	単県	原種貯蔵施設保守点 検業務	(有)オールエンジニア サービス	747,000 (H24.4.1) 746,550	H24.4.1 ~ H27.3.31	H24.3.16 (免除)	H24.5.24 外 H24.5.24 外	精算	H24.6.5 外	248,850	H24~26年度 債務負担行為 年額 248,850	
農業試験場費	単県	庁舎警備業務委託	山陰警備保障(株)	606,000 (H24.2.24) 181,440	H24.4.1 ~ H27.3.31	H24.2.15 (免除)	H24.4.30 外 H24.5.1 外	精算	H24.5.15 外	60,480	H24~26年度 債務負担行為 年額 60,480	
農業試験場費	単県	廃液処理業務委託	アサヒブリック(株)	@65円/Kg ほか (H24.10.16) @65円/Kg以上	H24.10.16 ~ H25.3.31	H24.9.21 (免除)	H24.11.30 外 H24.12.12 外	精算	H24.12.20 外	139,262		
農業試験場費	単県	鳥取県産米水稲玄米 の食味官能試験	(財)日本穀物検定協 会	409,500 (H24.12.28) 409,500	H24.12.28 ~ H25.3.31	H24.12.14 (免除)	H25.3.6 H25.3.11	精算	H25.3.19	409,500		
農業試験場費	単県	作業環境測定業務	(社)鳥取県産業環境協 会	995,820 (H24.7.31) 803,250(全体) 4試験場分	H24.7.31 ~ H25.3.29	H24.7.24 (免除)	H25.3.11 H25.3.18	精算	H25.4.8	424,830	林試以外の4試験 場分を一括契約	
農業試験場費	単県	農業試験場原種合理 化施設新築工事設計 委託								1,354,500	営繕課に担当替 え	
予定価格が20万円 未満のもの										317,435		
目計										2,954,857		
合計										2,954,857		

(4-2)委託料(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの) 該当なし

18 工事請負費調べ

(単位：円)

予算科目 (目)	国補 単県 の別	工 事 名	当 初 契 約		入札等年月日 (契約保証金 納付等年月日)	請 負 人	支 出 状 況		実 地 完 成 年 月 日 検 査 年 月 日	変 更 (解 除) の 理 由	備 考
			(起工年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額			支 出 区 分	金 額			
			変 更 契 約 (最終)		契 約 形 態						
			(変更年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額		工 期	工 期				
農業試験 場費	単県	農業試験場 農機具保管庫 新築他工事	()	()	()			13,759,200			営繕 課課 に配 当替 え
			()	()	()			13,759,200			
目 計								13,759,200			
合 計								13,759,200			

18-2 工事請負費調べ (他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)

該当なし

19 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末			本年度異動状況			本年度末			備考	
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)		価額(円)
					増加 減少								
行政財産	農業試験場圃場	鳥取市橋本字原繩手144-2外	27,147.58	0	増加	H			H	27,147.58	0		
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字立石162外	48,852.90	0	増加	H			H	48,852.90	0		
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字井手ノ上206-1	4,986.00	0	減少	H			H	4,986.00	0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字井手ノ上	3,619.00	0	増加	H			H	3,619.00	0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字		0	減少	H			H		0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字下敷江215-1外	6,032.00	0	増加	H			H	6,032.00	0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字上敷江220外	5,855.00	0	増加	H			H	5,855.00	0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字加瀬谷225-1外	3,252.82	0	増加	H			H	3,252.82	0		
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字奥ヶ谷224外	19,987.95	0	増加	H			H	19,987.95	0		
	計			119,433.25	0			0.00	0.00		119,433.25	0	
普通財産	なし				増加	H			H		0.00	0	
					減少	H			H		0.00	0	
計			0.00	0			0.00	0.00		0.00	0		
合計			119,433.25	0			0.00	0.00		119,433.25	0		

イ 建物

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末			本年度異動状況			本年度末			備考	
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)		価額(円)
					増加 減少								
行政財産	農業試験場本館	鳥取市橋本	2,423.60		増加	H			H	2,423.60	0		
	付属棟	"	182.00		減少	H			H		0		
	渡廊下	"	24.00		増加	H			H	182.00	0		
	収納舎	"			減少	H			H	24.00	0		
	油倉庫	"	7.70		増加	H			H	495.00	0		
	車庫	"	118.67		減少	H			H	7.70	0		
	自転車置場	"	27.36		増加	H			H	118.67	0		
	土壌調査室	"	43.74		減少	H			H	27.36	0		
	土壌殺菌室	"	24.30		増加	H			H	43.74	0		
	人工気象室	"	63.00		減少	H			H	24.30	0		
	病害虫温室網室	"	162.00		増加	H			H	63.00	0		
		"			減少	H			H	162.00	0		

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成25年3月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 28,880	円 103,000	円 107,250	円 24,630	
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
図書カード	10,000	0	0	10,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	42,680	103,000	107,250	38,430	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

(3)基 金 該当なし

(4) 債権

(平成25年3月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				本年度末		備考
	金額	件数	増		減		金額	件数	
			金額	件数	金額	件数			
行政財産使用料	円 33,660	2	円 163,680	2	円 26,180	1	円 171,160	3	
合計	33,660	2	163,680	2	26,180	1	171,160	3	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先 住氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H24.4.1	H14.4.1	H24.4.1~H29.3.31	月額・年額 9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株)鳥取支店	
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H21.4.1	H16.3.31	H21.4.1~H26.3.31	月額・年額 7,480	7,480	鳥取市商栄町117-3 中国電力(株)鳥取営業所	
	ソフトバンクモバイル携帯電話基地局	鳥取市橋本260	16.0㎡	H20.3.3	H15.10.24	H20.4.1~H25.3.31	月額・年額 18,700	18,700	東京都港区東新橋1-9-1 ソフトバンクモバイル	
普通財産	さのこまつり来場者用駐車場	鳥取市橋本260	1,708㎡	H24.9.26	H24.9.26	H24.10.6	月額・年額 1,564	1,564	鳥取市富安1丁目84 財団法人 日本きのこセンター	
計								36,744		
普通財産		該当なし								
計								0		
合計								36,744		

イ 建物

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先 住氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1.28838㎡	H24.4.1	H21.4.1	H24.4.1~H29.3.31	月額・年額 31,920	31,920	東京都江東区亀戸1-42-20 ネオス(株)	
計								31,920		
普通財産		該当なし								
計								0		
合計								31,920		

(2) 物品

該当なし

21 借受不動産明細調べ

該当なし

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅

該当なし

(2) 職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況
(行政財産)

月別	前月末 人	当月減		当月増		当月末		調定額	収入済額	入未済
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免			
4月	39	5		6		40		40,000		
5月	40	0		2		42		42,000		
6月	42	1		0		41		41,000		
7月	41	0		0		41		41,000		
8月	41	0		0		41		41,000		
9月	41	1		1		41		41,000		
10月	41	0		1		42		42,000		
11月	42	0		0		42		42,000		
12月	42	0		0		42		42,000		
1月	42	1		0		41		41,000		
2月	41	0		0		41		41,000		
3月	41	1		0		40		40,000		
合計								494,000	494,000	0

23 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度		修理費等	備考
					稼働 日数	(1か月平均) 走行キロ数		
普通貨物トラック	H22	鳥取100さ60-65	H22.7.29	12,026	78	509	120,559	車検
合計		1台					120,559	

24 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

25 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用決定年月 日	不用とする理由	処分			備考
							売却棄却の別	売却方法・棄却理由	処分 年月日	
冷蔵庫	1	S55.7.5	年 5	円 51,500	H24.11.14	使用不能のため	棄却	使用不能のため	H24.12.3	0
合計	1			51,500						0

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ 該当なし

27 貸付金等状況調べ 該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(平成25年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)3箇所を修繕	

目 名	農作物対策費	(平成25年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
花き生産強化推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名	肥料植物防疫費	(平成25年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農薬適正使用推進事業	<p>農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の制裁を支援する。</p> <p>農業試験場では県特産物のうち、ラッキョウなどのマイナー作物(年間出荷量が3万トン以下の作物)で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、農作物中の残留農薬分析を行った。</p>	

目 名	農業総務費	(平成25年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
臨時的調査研究事業	<p>各試験場が当初から計画して取り組んでいる試験研究課題とは別に、突発的な課題解決のため、迅速かつ柔軟に対応できる予備調査への支援経費。</p> <p>農業試験場では、2課題(試作有機肥料による施肥法改善、気象測定法の検討)について実施した。</p>	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働 日数	燃料		修繕費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
トラクター	ヤンマー YH3110	S54. 5. 21	耕地整地、代かき	23	115.0	15,392			
トラクター	クボタ Z11-33	S61. 5. 7	"	22	172.0	23,021			
トラクター	ヤンマー FX435	H 4. 5. 15	"	52	424.0	56,751	86,100	作業機ジョイント修理	
トラクター	クボタ GL367QBSMAP	H10. 4. 27	"	51	417.0	55,814	289,769	クラッチ等修理	
種用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H 3. 9. 30	稲刈り	2	15.0	2,008			
コンバイン	イセキ HL177	H 5. 6. 9	"						
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H 9. 9. 22	"	9	95.0	12,715			
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17. 6. 30	"	8	90.0	12,047			
コンバイン	ヤンマー AE330, XJU	H23. 8. 31	"	13	80.0	10,708			
種用ハーベスタ	ヤンマー PXD600T	H 1. 9. 5	"						
種用ハーベスタ	ヤンマー PKO600T	H 4. 3. 10	"	2	6.0	790			
テラー	ヤンマー YTA-6A	H 2. 6. 11	収穫物等運搬						
テラー	ヤンマー YT-400	H 4. 5. 29	"	7	12.0	1,607			
テラー	クボタ TD 700	H18. 5. 8	"	20	25.0	3,347			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17. 5. 2	"	56	63.5	9,340			
動力運搬車	ライガー GX-101	H 6. 5. 23	"	69	70.0	9,040	400,000	エンジン・走行部修理	
動力運搬車	築水キャニコムELL801KZPW	H 9. 10. 1	"	84	56.0	7,166	211,995	タイヤ、チューブ、コグベルト、クラッチ他交換・修理	
耕うん機	ヤンマー YS-80	S47. 11. 30	耕地砕土、畦立	4	5.0	644			
管理機	ヤンマー ST-512	H 1. 9. 25	除草土寄、畦立	2	6.0	840			
管理機	IRS AR 600 エースローター	H 3. 7. 9	"	4	7.5	1,065			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11. 4. 23	"	11	13.5	1,948			
管理機	ヤンマー YB210	H20. 6. 16	"	4	7.5	1,076			
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24. 1. 18	"	12	78.5	11,095			
田植機	イセキ PC20	H 14. 4. 30	"	12	21.5	3,172	3,570	クッション、ブシリバリ交換	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H 9. 5. 20	"						
側条施肥田植機	ヤンマー YP-250	S60. 5. 24	"						
成苗田植機	みのる LTP-4000	S60. 5. 27	"						
乗用田植機	イセキ ミニ-40	S63. 4. 30	"	9	17.0	2,528			
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15. 5. 16	"	7	15.0	2,205	4,410	フィンガ交換	
乗用田植機	クボタ NSU67-SP2, SJ-6N	H23. 5. 23	"	25	102.0	14,886	81,165	油圧ポンプ、ポンプ駆動部ミッション洗浄、フィルタ交換	
バインダー	クボタ ZF-52	S58. 7. 30	稲、麦刈	6	4.0	579			
バインダー	ヤンマー YB 65	H 1. 9. 18	"	1	0.0	0			
バインダー	ヤンマー YB-50	H 4. 2. 25	"						
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H 6. 11. 18	大豆刈取	8	53.0	7,094			
不耕起播種機	みのる 歩行型2条型一式	H 7. 1. 10	乾田直播用播種						
フォークリフト	小松 FG09-2	H 9. 10. 16	収穫物等運搬	99	178.0	25,887	59,000	年次検査、部品交換	
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H 9. 7. 15	耕うん、畝立、マルチング						
大豆脱粒機	PBT610	H16. 3. 23	大豆脱穀機	1	1.0	147			
合計				623	2,150.0	292,912	1,136,009		

30 生産物（品）に関する調べ

(平成25年5月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積	生産計画数量	生産数量			場内使用	処分数量						分類換	差引残	備考	
				前年度からの繰	生産購入	計		売却		目的外使用		廃棄	計				
								数量	金額	数量	金額		数量				金額
		a	kg	kg	kg	kg	kg	kg	円	kg	円	kg	kg	円	kg		
水稲	原種	185	5550	4234.8	6490	10724.8	379.5	4046	1,451,912			3.5			6263.2	保管中の減水分による目べり 32.6	
玄米	一般	405.1	16200	0	24700	24700	300	23180	4,310,712			1220			0		
									920,168								H23出荷
										293,171							H22出荷
麦類	原種	19	300	12.8	689.9	702.7	0.5	400	102,283						302.2		
大豆	原種	114.9	1380	4095.9	2177.5	6273.4	58.1	1000	421,166						5209.6	保管中の減水分による目べり 5.7	
	一般	40.3	1200	0	2615	2615	0	1753	45,770						862.0		
	計								7,545,182								
野菜	白ネギ	4.0	200	0	268.8		0	268.8	99,000						0		
	ブロッコリー	4.5	40	0	55.5		0	55.5	22,200						0		
	アスパラガス	0.7	30	0	43.5			43.5	43,500						0		
	計								164,700								
合計								7,709,882									

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成25年5月31日現在)

事業名	水稻新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額)	(1,297,000円)
			支出済額	1,216,910円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稻新品種の育成	場内 智頭町	初期世代 40a 生産力検 定 26a 現地試験 10a	鳥取県における水稻の各栽培地帯及び栽培体系に適応する優良品種を育成する。	(成果) 42組の交配、28組のF1個体養成、85組の世代促進、集団養成・選抜、318系統の系統養成・選抜、55系統の生産力検定を行った。 優良な系統9系統について、鳥系番号を付与した。
				(課題) 気候温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

2 (平成25年5月31日現在)

事業名	奨励品種選定等試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,604,000円) 1,493,970円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 11ヶ所	40a 65系統 各10a 極早生粳 2ヶ所各2系統 早生粳 4ヶ所各1品種 中生粳 4ヶ所各2系統 中生糯 1ヶ所1系統	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか4機関)、公立試(福井県農業試験場ほか8機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 有望な2系統を本調査へ、26系統を継続とし、31系統を打ちきりとした。 (2)本調査 4系統を継続とし、2系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の6系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 7系統 六条大麦 5系統 5a 二条大麦 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は4系統を継続とし、3系統打ち切り、六条大麦は3系統を継続とし、2系統を打ち切りとした。 (2)本調査 二条大麦の1系統を継続とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 5ヶ所	15a 23系統 各10a 各2系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 有望な1系統を本調査へ、7系統を継続とし、13系統を打ちきりとした。 (2)本調査 1系統を継続とし、1系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の2系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。
				(課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

3

(平成25年5月31日現在)

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額)	(1,361,000円)
			支出済額	1,296,690円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単)</p> <p>奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。</p> <p>また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	20a 1品種	<p>水稲</p> <p>「つや姫」の栽植密度や穂肥の施用法の違いによる生育、収量、品質等への影響を明らかにする。</p>	<p>(成果)</p> <p>水稲</p> <p>「つや姫」の収量及び品質が向上する1回目の穂肥は幼穂長1mm時に窒素量2kg/10aが良く、栽植密度は坪40株程度までの疎植が可能である。</p>
	場内	3a 1品種	<p>ビール麦</p> <p>「しゅんれい」の精麦蛋白質向上に向けた施肥体系を検討する。</p> <p>また、防除時期を計画するための出穂期予測法を検討する。</p>	<p>ビール麦</p> <p>追肥時期を遅らせても蛋白質含量向上につながらないことが明確となった。止め葉と上位第2葉の葉耳間長を測ることで、実用的な出穂期予測が可能となった。成果情報として、現地へ提供した。</p>
<p>水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供</p>	<p>場内 県内現地 15カ所</p>	<p>場内7a 坪刈2～3 地点/箇所</p>	<p>コシヒカリ、ひとめぼれ等の生育データの集積するとともに穂肥施用時期の目安となる幼穂形成期等の予測について検討する。それらの生育情報について随時現地に提供を行う。</p>	<p>(成果)</p> <p>生育推移や収量・品質・食味等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。</p>
				<p>(課題)</p> <p>データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信</p>

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

4

(平成25年5月31日現在)

事業名	気候温暖化に対応した水稲・大豆基幹 品種の品質等向上試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ~ H26年度		(予算額) 支出済額	(1,080,000円) 1,031,170円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲主要品 種である「コシ ヒカリ」の品質 向上に向けた 栽培技術を確 立する。	場内 県内現地 1ヶ所	11a	6月中下旬移植及び施肥 量の相違が収量、品質にど う影響するかを明らかにす る。	(成果) 遅植、施肥量が多いほど倒伏が進み、収量、 品質ともに低下した。
		10a		(課題) 移植時期に合わせた倒伏を回避する施肥量 等の検討
2.大豆主要品 種ある「サチユ タカ」の収量安 定技術を確立 する。	場内 県内現地 3ヶ所	7a	5月下旬～7月下旬播種に おける収量、品質を向上さ せる播種密度を明らかにす る。	(成果) 5月下旬は種は倒伏や子実の裂皮による品 質低下になりやすい。6月下旬以降の播種は密 播にすることで、収量が確保され、品質も向上 することがうかがえた。
		50a		(課題) 6月下旬以降での安定収量を得るための時 期別播種密度の検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

5

(平成25年5月31日現在)

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稻)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(16,816,000円) 15,169,610円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稻の原々種の採種	場内	9a	水稻原々種の選抜、維持。	(成果) ヒカリ新世紀24系統、きぬむすめ28系統、鈴原糯20系統、ハクトモチ21系統、鳥姫18系統、強力2号5系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稻原種の採種	場内	188a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) ひとめぼれ、コシヒカリ、ヒカリ新世紀、きぬむすめ、鈴原糯、ハクトモチ、鳥姫、強力2号について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原々種の採種	場内	12a	大豆原々種の選抜、採種。	(成果) 鳥取大山2001を16系統、緑だんだん24系統、三朝神倉18系統、タマホマレ30系統、サチユタカ30系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
4.大豆原種の採種	場内・現地	117a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) サチユタカ、タマホマレ、、緑だんだん、鳥取大山2001、三朝神倉について採種を行った。 (課題) 特になし。
5.麦の原々種の採種	場内	2a	大麦原々種の選抜、採種。	(成果) しゅんれい20系統、ダイセンゴールド18系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
6. 麦原種の採種	場内	17a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) しゅんれい、ダイセンゴールドについて採種を行った。 (課題) 特になし。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

6

(平成25年5月31日現在)

事業名	水田転作野菜の安定栽培技術の確立		担当室別	作物研究室	
実施計画期間	H23年度 ～ H27年度		(予算額)	(1,000,000円)	
			支出済額	895,672円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標		試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水田における白ネギ適品種の選定とかん水効果の検討	場内	7a	主な事業に関する調べに記載。		
2.アスパラガスの定植方法の検討	場内	3a			
3.早春からトラクター作業を可能とする技術の確立	場内	20a			

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

7

(平成25年5月31日現在)

事業名	水稲・大豆の「ゆうきの玉手箱」技術 確立事業		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室
実施計画期間	H21年度 ～H24年度		(予算額) 支出済額	(1,940,000円) 1,903,940円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培水 稲における除 草法の改善と 新たな問題病 害虫の防除技 術の検討	場 内 倉吉市 関金町	24a 20a 20a	6 主な事業に関する調べに記載	
(単) 2. 有機栽培大 豆の問題点把 握と雑草・病 害虫対策技術 の検討	場 内 鳥取市 倉吉市	11a 20a 20a		
(単) 3. 有機栽培に 輪作を導入す ることで期待 できる様々な 効果の検証	場 内	11a		
(単) 4. 各種技術を 体系的にとら えた経営評価	場 内	室内解析		

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

8-1

(平成25年5月31日現在)

事業名	有機栽培「技術の原石」トレジャーハント！検証・解析する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室
実施計画期間	H23年度 ～H25年度		(予算額) 支出済額	(1,786,000円) 1,675,280円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培現地実践ほ場の調査・検証 (概要調査) 1) 水稲作	八頭町 琴浦町	有機栽培水稲ほ場 3グループ 6ほ場	新規に有機栽培の取組みを始めた農業者を対象に、水稲3事例の実態を調査。生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 今年度は、各農家が検討を要すると考える改善策を試行し、植付密度を高く設定する、苗質の向上効果の確認のため農試育成苗を持ち込む、等を実施した。植付密度を高くした事例では、穂数の増加で収量(約480kg/10a)向上となり、一つの改善策と考えられた。 (課題) 改善効果のデータ蓄積のため、さらに継続した調査を要する。以下の畑作調査も同様。
2) 畑作(大豆、らっきょう)	鳥取市 南部町 北栄町	有機栽培大豆ほ場 2グループ 4ほ場 らっきょうほ場 2グループ 2ほ場	新規に有機栽培の取組みを始めた農業者を対象に、畑作物4事例(大豆・ラッキョウ)の実態を調査。生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 大豆「サチユタカ」を栽培する南部町の事例では、適期の除草作業で着莢数が確保され、精子実も約300kg/10aと高い収量となったことから、有機栽培の可能性が確認できた。 らっきょうでは、雑草対策の資とするため、層位ごとの土壌サンプル中の雑草種子量を調査し、2事例とも深さ15cmまでの表土に雑草種子が高率で存在(深さ40cmまでを100とした場合、57～81)することが確認された。
(単) 2. 先進的な水稲有機栽培技術の科学的解明 (詳細調査)	鳥取市	有機栽培水稲ほ場 1グループ 10ほ場	前事業の3カ年の現地調査で抽出された優良農家(1事例)を対象として、来歴の異なる10ほ場で調査を行い、雑草対策技術のメカニズム並びに環境要因(土壌条件等)が生育収量に与える影響を解析する。	(成果) 雑草重量と精玄米重との間に負の相関(危険率10%水準)が認められた。雑草の草種で見れば、コナギとオモダカの発生量は有機転換後10年以上経過したほ場で多く、10年以下のほ場ではカヤツリグサ類が多く認められた。 (課題) 土壌表面の「トロトロ層」と呼ばれる膨軟な部分が雑草抑制に果たす役割を再現、調査する必要がある。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

8-2

(平成25年5月31日現在)

事業名	有機栽培「技術の原石」トレジャーハン ント！検証・解析する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室
実施計画期間	H23年度 ～H25年度		(予算額) 支出済額	(1,786,000円) 1,675,280円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 3. 水稻の有機 栽培体系化技 術の実証展示	場内 琴浦町 大山町	24a 30a 20a	農業試験場が確立・体系化 した技術等をモデル的に東 部(場内)、中部(琴浦町)、 西部(大山町)ほ場で実証展 示すると共に、現地での適 応性を確認する。	(成果) 現地ほ場では、除草効果の高い「大豆粕配合 米ぬかペレット」の施用の有無が水稻生育・収 量等に及ぼす影響を調査した。精玄米収量は ペレット施用区でやや高く、これに連れ玄米蛋 白含量も高めとなった。一方、雑草発生量は、 ペレット施用区で大きく低減した。 (課題) 経年変化を継続して調査する必要がある。
(単) 4. 有機栽培実 践者技術研究 会(仮称)の設 置	有機栽培実 践者の現地 ほ場 室内		有機農業者相互の情報交換 ・研鑽の場として、農業試験 場の呼びかけで技術的な研 究会を開催する。	(成果) 本年度は「日本有機農業学会現地研究会」を誘 致し、県内外から多数の農家の参加を得、好評 であった。こうした活動を通じ、農家による研究 会組織等のネットワークづくりに向け、意識の醸 成がなされたと評価している。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

9

(平成25年5月31日現在)

事業名	水稲・麦・大豆の病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H23年度 ～ H26年度		(予算額) 支出済額	(1,776,000円) 1,722,092円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単・委) 鳥取県の水稲・麦・大豆栽培において被害につながる病害虫を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、(1)安定生産および高品質化、(2)防除の省力・低コスト化、(3)人と環境にやさしい農業の推進を図る。	場内 鳥取市 八頭町 琴浦町	30a 20a 20a 20a	1.水稲種子伝染性病害の防除対策の確立 (内穎褐変病等) 2.的確な防除対策のための新たな発生予察法の確立 (フタオビコヤガの発生予察法の検討、斑点米カメムシ類の簡易調査法の検討) 3.発生増加が懸念される病害虫の防除対策の確立 (ばか苗病の温湯消毒の補完技術) 4.生産安定のための省力防除技術の確立 (ムギ病害、水稲病害虫)	(成果) ○水稲病害に対する新規微生物の効果を把握(特許出願予定)。 ○従来法に比べ省力的なフェロモントラップ利用による調査法が、フタオビコヤガの発生予察に有効であることを把握した。 また、斑点米カメムシ被害の予測をフェロモントラップの利用で可能であった。 ○温湯消毒と微生物農薬との併用の防除効果を検討した(データ蓄積)。 ○大麦網斑病に対して高い防除効果のある薬剤を把握した(平成24年度成果情報) ○水稲害虫フタオビコヤガ防除に関して、有機栽培にも使用できる微生物農薬の有効性を確認した(平成24年度成果情報) ○イネ紋枯病に対する新規育苗箱施用剤の防除効果およびフタオビコヤガに省力防除法について検討した(データ蓄積)
				(課題) 当场発見の発病抑制微生物の商品化(農業化)に向け、農薬メーカーを含めた協力体制の構築を図っている。今後とも協力体制の維持、強化が求められる。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

10

(平成25年5月31日現在)

事業名	水稻大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額)	(584,000円)
			支出済額	584,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稻新除草剤試験	場内	20a	水稻用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 9剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.難防除雑草の防除技術確立	場内	10a	水稻の難防除雑草(クログワイ、クサネム等)に対する除草剤の実用性を検討する。	(成果) 2剤について実用性があると判断した。 (課題) 難防除雑草の種類別防除方法技術の検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

11

(平成25年5月31日現在)

事業名	新農業の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(470,000円) 470,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 八頭町 (2か所)	25a 40a	殺菌剤およびその混合剤7剤、殺虫剤およびその混合剤10剤、計17剤の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)9剤、B(実用性がある)3剤、C(効果は低い実用性あり)5剤、D(実用性低い)は該当なしであった。
				(課題) なし

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

12

(平成25年5月31日現在)

事業名	耕作放棄地解消に向けた復田化及び畦畔管理技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ H26年度		(予算額)	(1,401,000円)
			支出済額	1,341,445円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水田再利用に向けた復田化方法の検討	場内	13a	耕作放棄地の状態であった水田の復田化手法を検討。	(成果) フレールモアを利用し、葎、葛、倒伏稲、小径木(柳)が繁茂した耕作放棄地への適応性を検討した結果、地表部の処理は問題なく実施できた。 (課題) フレールモアで地表部を処理した後の地下部処理方法の検討
2.畦畔管理の省力化の検討	場内 現地	5a 5a	畦畔用被覆植物の早期繁殖化に向けた実証	(成果) 被覆植物として有効な芝類の品種試験を実施し、本県での有望な夏芝(センチピードグラス)、冬芝(ハードフェスク、ケンタッキーブルーグラス)が見つかった。 (課題) 被覆植物を早期に繁茂させる技術の確立

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

13

(平成25年5月31日現在)

事業名	安定した収量と食味向上のための水稲 省力施肥技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H 23年度 ～H 26年度		(予算額)	(1,527,000円)
			支出済額	1,433,720円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水稲の収量と 食味、品質の 向上を目指し た肥培管理技 術の検討	ヒカリ新世紀 場内 米子 大山 きぬむすめ 場内 倉吉 コシヒカリ 場内 大山	12a 30a 15a 12a 33a 12a 40a	6 主な事業に関する調べに記載	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

14

(平成25年5月31日現在)

事業名	水環境を守る肥料の低投入・低流出稲作技術の開発		担当室別	環境研究室・作物研究室
実施計画期間	H22年度 ～ H25年度		(予算額) 支出済額	(2,059,000円) 1,908,852円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(県) 水稲作においてリン酸投入方法の改善および窒素、リンなどの富栄養化物質の流出低減技術を確立し、環境保全型農業の推進と水環境の向上と生産コストの低減を図る。	鳥取市金沢	15a×4	ほ場外へ流出するリン酸の低減を図る。 このため、モデルとして選定した鳥取市金沢地区の土壤実態を把握し、土壤のリン酸量に応じてリン酸肥料の量を変えて水稲の生育、収量への影響をみる。 ほ場から流出する濁水量を減らすため、代かきの方法(節水代かき、無代かき)を検討する。	(成果) ・土壤中の可給態リン酸量が異なる5ほ場を選定し、リン酸施用水準が異なる3処理を設け水稲栽培を行った。 土壤中の可給態リン酸量が最も低いほ場においても、リン酸減肥区の収量、品質は慣行栽培と同等であり、施肥リン酸量低減の可能性が示唆された。 また、リン酸施肥量を減らすことで田面水のリン含量が低減した。 ・鳥取市金沢、堤見において、浅水代かき栽培を実施した。 ・移植精度、収量、品質は慣行と同等であり、現地適応性が高いと考えられた。
	鳥取市堤見 (湖山池南岸)	20a×2		(課題) 湖山池の水質改善に向けて、鳥取農業改良普及所、JA鳥取いなば、鳥取市とも連携し、試験成果等の紹介を行っている。今後とも関係機関との連携を強化し、実効性のある取り組みを進めていく必要がある。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

15

(平成25年5月31日現在)

事業名	土壌保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,096,000円) 1,021,866円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(国補) ＜土壌炭素調査＞ 地球温暖化防止と土壌肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量と変化についての調査を行う。	県内17ヶ所の水田、畑、果樹園、草地(鳥取、倉吉、米子、湯梨浜、北栄、琴浦、大山、伯耆、南部、日野)	土壌理化学性調査、断面調査、(18項目)、アンケート調査	適切な土壌管理法の確立にむけた土壌中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 地目別では樹園地及び草地、土壌別では黒ボク土で炭素貯留量及び窒素貯留量が高い傾向があることを確認した。 (課題) なし
(単) ＜土壌機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壌管理や土壌改良のための基礎資料とする。	県内6ヶ所の水田、畑(米子、伯耆、大山)	土壌理化学性調査、断面調査、(36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。また、過去数年分の結果をとりまとめる。	(成果) 計画通り調査を実施。 畑においてリン酸や加里分の蓄積等を確認した。県内土壌の経年変化について、過去数年分を取りまとめ、成果情報として提案を予定している。 (課題) なし

- 意見、要望等
 - (1) 業務に関する要望等 該当なし
 - (2) 監査委員事務局に対する意見・要望等 該当なし